

和歌山大学における 観光学教育研究の 高度化と国際観光学 研究センターの役割



和歌山大学国際観光学研究センター
特任准教授

中元 一恵

○はじめに

世界の国々や地域で最も有望な成長産業の一つとして位置付けられている観光。21世紀は観光の時代とされ、日本でも近年「観光」を戦略産業と位置づけ、観光立国に向けて様々な取り組みがなされている。観光においては産業のみならず、教育や研究分野も注目され、数多くの大学が様々な観光学プログラムを提供している。世界レベルでの観光学の発展は1990年代から始まり、現在は「職業重視主義」から「知識重視」の段階に来ている。

その一方、日本の観光学教育・研究においてははまだ「職業重視主義」から脱却できず、観光学を担うべき高等教育機関の発展の立ち後れから、その研究対象、方法論においても相対的に評価が低く、補完的位置づけであり、概して世界の観光学研究動向に大きく遅れており、それによって、本来観光学が持つ幅広い産業との関連性を活かした経済、雇用、地域活性化を担う人材の養成の遅れも目立っている。このように日本の観光学は世界から隔絶し、国際的な観光学研究から見ると一種の「ガラパゴス状態」に陥っており、それに安住しているのが現状である。今、日本の観光学研究に必要なのは世界への発信力を持つ研究であり、それを牽引できる観光学研究組織の確立である。

○国際観光学研究センター設置の背景と求められる役割

このような背景の中で、2016年和歌山大学国際観光学研究センター（以下CTR：Center for Tourism Research）は設置された。当センターは、観光学研究の高度化を通じ、健全で持続可能な社会の発展に寄与することをミッションに掲げ、日本国内のみにとどまらずアジア太平洋地域における観光学研究の牽引、そして国内外の主要な観光学研究機関との連携強化を目的としている。日本の国立大学で唯一学部から大学院後期課程までの観光学プログラムを持つ観光学部と連携し、日本における観光学教育及

び研究を世界へ発信、そしてアジア・パシフィック地域でのハブとなることを目指すとともに、学際的学問領域である観光学を基点に、各学部・研究科等の人材・強み・特色を集結し、その成果を和歌山大学全学に還元・循環する仕組みを構築することにより、本学全体の教育・研究機能の強化を図ることにも貢献する。

CTRはセンター長1名、副センター長3名、コーディネーター3名そして事務サポート2名で構成され、さらに専属の研究員を世界各国より3名、センター開設と同時に採用している。副センター長3名の内2名は海外より招聘された本学特別主幹教授であり、世界水準の研究センターの確立へ向けての彼らの貢献は高く評価されている。コーディネーターに関しても、国際教育、また観光学教育分野での経験豊富な人材が集まっており、当センターの原動力となっている。

CTRの主な業務は、大きく分けると研究サポート、教育サポート、連携と発信の3つに分類される。まずは研究サポートであるが、CTRでは10の研究ユニットを設置し、それぞれのユニットごとにプロジェクトや研究が行われている。各研究ユニットは和歌山大学の教員のみならず、様々な国籍やバックグラウンドを持った研究者で構成され、彼らのインプットはCTRの研究にとって不可欠なものとなっている。また、CTR研究委員会を軸に、研究およびプロジェクトが円滑にそしてより質の高い研究成果を出せるよう各ユニットに対しての支援、国内外の研究者の招聘、セミナー、ワークショップなどの企画・運営、さらに、アジアにおける研究機関のハブとして、

アジア各国の観光関連大学および機関と連携した研究プロジェクトの企画立案等も行っている。主なプロジェクトとしては、地域活性、災害復興・文化遺産保全・まちづくり等が挙げられる。特に、無形文化遺産保全、地域コミュニティ参画、協働、災害復興など、アジア地域の特性、強みを活かした研究及びプロジェクトに取り組んでおり、観光振興による経済効果を促し、持続可能な社会貢献を目指している。

教育サポート面では、国際観光関連機関、例えば国連世界観光機関（以下UNWTO）などが主催する国際会議への学生ボランティア参加のサポートやUNWTOより毎年発行される国際観光の概況レポートである“UNWTO Tourism Highlights”の日本語版作成に本学学生が参加する機会をUNWTOアジア太平洋センターよりいただいております。その際にもCTRでは、参加学生のサポートを業務の一環として行っている。また、Global Program(以下GP)に対するサポートも実施。このプログラムは観光学専門科目を英語で受講し、単位取得を目指すというものである。学生にとってはかなりチャレンジングなプログラムではあるが、多くの学生がこのプログラムへの登録を希望している。

最後に、外部機関との連携強化だが、UNWTO、UNWTOの教育・訓練関連プログラムを担うThemis Foundation、Pacific Asia



Travel Association (PATA) といった国際機関、また、フィリピン大学、ガジャマダ大学等のアジアの観光教育・研究機関と正式に協定を結び、共同研究及びプロジェクトの企画運営を通して連携強化を目指している。さらに、サリー大学（英）やクイーンズランド大学（豪）などからの特別主幹教員達との共同研究を通じて世界各国の外部機関との繋がりを構築している。

観光学部への教育サポートとTedQual 認証の取得

UNWTOとThemis Foundationが実施する認証制度がTedQual (Tourism Education Qualityの略) 認証プログラムであり、1999年に開始され、現在は世界で70ほどの研究・教育機関が認証を受けている。この認証を昨年度、和歌山大学観光学部が日本で初めて取得した。

TedQual 認証制度は観光に関する教育、研究、訓練プログラムがUNWTOとThemis Foundationが定めた一定基準を満たしているかどうかを確認し、それぞれのプログラムの質の向上を目的としたものである。評価項目は大別すると産業界との関わり、学生へのサポート、教授法、学部教員、大学全体のマネジメント、そして最後にUNWTOが掲げている観光倫理憲章がいかに関係に反映されているか、という6分野からなり、それぞれの部門で評価される。

TedQual認証取得行程は、事前自己評価申請、本申請、実地監査の3段階に分かれる。まず、事前自己評価申請だが、これは本申請に進む前に提出を義務付けられているものであり、申請希望するプログラムに関しての概要を取りまとめた書類を作成、提出が必要である。この事前申請書類に記載された内容を基に、これからTedQual 認証を取得しようとするプログラムが認証申請レベルに達しているかどうかを判断され、これにパスしなければ本申請に進むことができない。この事前自己申請に合格すると、いよいよ本申請である。本申請では、100以上あ

る質問項目に対し、一つ一つの確に回答していかなければならず、その結果、数十ページにも及ぶ申請書を作成した。本申請書類作成の際、書類作成と同時に本申請書に記載した内容を裏付けるエビデンスを準備し、それを実地監査の際に提示することが義務づけられている。また、実地監査の際には、観光学部のみならず大学全体の教職員との面談も実施され、多岐にそして詳細に渡った実地監査が行われた。

これらすべての行程を終了し、和歌山大学観光学部プログラムは無事TedQual 認証を受けることができた。しかし、これで目的が達成されたわけではない。観光学部にとってこれからが始まりである。TedQual 認証を取得したということは本学観光学部が提供するプログラムがUNWTO Themis Foundationが定めるある一定の基準をクリアしたということに過ぎない。

今後は、TedQual 認証取得過程で明確化した改善課題に対し、どういう姿勢で臨んでいくかが最重要となる。これを機に和歌山大学観光学部プログラムを入念に見直し、より質の高い観光学教育及び研究に貢献できるプログラムを構築する必要がある。この目標達成のため、CTRとして今後もできる限りのサポートを提供できればと考えている。

